

# 天の時 地の利 人の和

岡山県知事

石井正弘

Masahiro Ishii

きょうせい



人道支援の世界都市へ

すがなみ しげる  
菅波 茂

(特定非営利活動法人アムダ理事長/医療法人アスカ会理事長)

「弱者が存亡の危機に瀕した時に動く」とは岡山の精神風土です。1995年の阪神大震災被災者救援活動に岡山は燃えました。神戸の人達には非常に感謝されました。しかし、岡山の人達は当たり前のことをしただけと思っています。このギャップが岡山の真の財産です。更に、同年のサハリン大地震、1996年の雲南大地震、1999年のトルコ大地震、2001年のインド西部大地震そして最近では2003年のイラン南東部地震におけるAMDAの被災者救援活動に対する暖かいご支援が何よりの証拠と思っています。

岡山の精神風土の秘密は桃太郎伝説から始まる弱者の歴史にあります。弱者は弱者の痛みがわかります。弱者の痛みがわかる視点を大きく伸ばすことこそ岡山の明日を築く原点です。弱者の痛みを理解できる気持ちに国境はありません。弱者の痛みがわかる精神風土は人道支援の世界の公共財産と言っても過言ではありません。

人道支援の世界都市。世界都市とは世界が必要とする都市の意味です。「西のジュネーブ、東の岡山」はそのスローガンです。ジュネーブには人道支援の国連機関、国際機関そして国際NGOが集っています。世界各地でそれぞれの地域のために活動しているローカルNGOのネットワークを岡山に確立し、ジュネーブと協力して世界の人道支援活動に貢献するという構想です。AMDAも国連NGOとしてお役に立てればと思っています。

石井知事の主導される国際貢献先進県構想と快適生活県構想は二卵性双生児です。弱肉強食の性格を有する資本主義社会が進歩すればするほど弱者への配慮が不可欠になります。国際貢献先進県構想は世界レベルで弱者へ配慮する精神を育成します。快適生活県構想の基本は少子高齢化社会における安心の確立にあります。二卵性双生児の真意は「情けは人のためならず」です。石井知事による岡山の精神風土を尊重した政策の実現が岡山県民にとって最大の至福になると確信しています。



石井さんと私

あかし やすし  
明石 康  
(元国連事務次長)

石井さんとは、AMDАの菅波理事長と鼎談をやって以来のご縁である。明るく率直で、県政に通じており庶民的な人だと思った。その後、私は「岡山発の国際貢献を考える会」の会長を仰せつかり、県政が多忙なのに石井さんが毎回出席し、適切に発言してくれる真摯さに、すっかり惚れ込んだ。

自然条件が厳しい東北に育った私にとって、岡山の地は恵まれていて羨ましい。天災は少なく、日本一日照の多い岡山の山々の穏やかな佇まい。河は悠々と流れ、吉備文化の豊かさは数多い陵からも知られる。

岡山市の曹源寺では、熱心な外国人が禅の修業に励んでいるのに驚き、宝福寺の境内にただよう静寂さには、のみこまれてしまう気持ちになる。倉敷市は、東京の中央集権に対して堂々と叛旗をひるがえし、地方文化の雄として悪びれるところが全くない。

グローバル化した時代に、すべてを東京から発信しようとする誤った態度に、岡山県は“待った”をかける実力を十分に備えている。医療では世界的水準に達している所もあり、それを目指して海外から訪れる人がいる。日本離れた活発な国際活動をしている民間団体もある。3,000mの滑走路を利用して、国際救援物資備蓄センターが設置されてもいる。

国境の垣根は低くなる一方であり、途上国に対する経済協力にも、地方自治体、NGO、大学、研究所、企業などが果たす役割が増大している。蓄積があり、条件を備えた岡山県こそ、豊かな人材を駆使して全国の先頭を走っていける気がする。

石井さんは、そんな私の期待を、いつもの温顔で受けとめてくれるに違いないと思う。大きなヴィジョンを持ち、秘められた情熱と組織力を発揮し、チャレンジにひるむところなく、世界に開かれた岡山県を、彼が着実に実現してくれることを信じている。

——国際貢献という国の取組みのようなイメージが強いのですが、地方自治体である岡山県が、なぜ国際貢献に熱心なのでしょうが。

## ■岡山県には弱者救済の精神あり

## ○交流、文化、スポーツ分野

入居してもらいました。また、平成十五年四月には、五十二室の研究室を持つ岡山リサーチパークインキュベーションセンターをPFI方式で建設、開設しています。さらに、十四年四月に、岡山市内二か所をIT特別経済区（eトップ・エリア）に指定しました。この特区は、国の構造改革特区に先駆けた本県独自の制度で、資金面と人的側面からの支援により、IT関連企業を戦略的に集積させることとしました。

石井 国際社会は、地球環境の保全や貧困の解消など、地球規模の諸課題に直面しています。その解決には国家間の協力が重要ですが、地域や個人レベルでも地球社会の一員として、そうした課題を自らの課題と受け止め、解決に向けて主体的に取り組み、国際協力を推進していく必



国際貢献大学校が開校

要があります。国連の場においても、加盟国だけでなくNGOや地方自治体の発言力が無視できなくなっているのはその現れです。

平和と豊かさを願いながら生活を営む同じ人間としての相互理解、共感を、国境を越えて人々の中に育むこと、多様で層の厚い国際貢献活動による結びつきの深まりが、世界の安全保障の礎を一層強

固にすると私は考えています。

また、岡山県は、日本で最初の孤児院を開設した石井十次氏、篤志家・大原孫三郎氏以来、福祉の伝統を現在に引き継いでいます。弱者が存亡の危機に面しているときには、必ず手を差し伸べるという精神風土があります。阪神淡路大震災のときに、多くの県民の皆様が積極的に活動したことからそれはわかります。我が国を代表する先駆的なNGOである国際医療ボランティア「AMDA（アジア医師連絡協議会）」の本部が岡山市にあり、県でもAMDAと連携してこれまで活動を

展開してきました。また、AMDA以外にも本当に多くのNGOが世界各地で活躍しています。

さらに、国際貢献というのは様々な活動が必要になっていきます。岡山県は優れた農業県、教育県と言われており、優れた人材がそろっています。そうした人材を活用して、AMDAなどに続くNGOを育成し、国際貢献先進県にしていきたいと考えているのです。

### ■国際救援拠点を空港内に設置

——これまでどのような国際貢献活動が行われてきたのでしょうか。

### 石井

平成十三年一月二十六日に、インド西部で大地震が発生しました。そのときも、救援活動を行うAMDAを支援し、募金活動を行うとともに支援物資の毛布をチャーター機に託したのです。

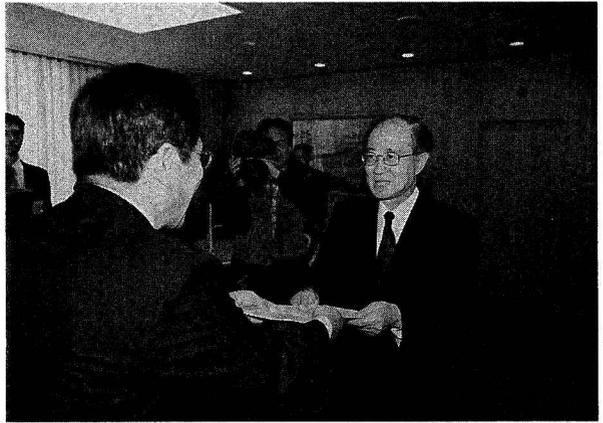
当時、岡山空港は滑走路が二千五百mしかなく、大型機に貨物を満載することができませんでしたが、その後、地方空港として初の三千m滑走路を整備しましたので、今なら十分な救援物資を載せて離陸できます。昨年五月には、岡山空港内に「救援物資備蓄センター」を設け、国際救援活動や県内・国内災害に係る緊急救援活動に活用する救援物資を備蓄することとしました。

同センターには、県購入品だけでなく、広く県民、企業、団体の皆様に提供を呼びかけてご協力いただいた、毛布、テント、シュラフなどの救援物資が備蓄されており、もし、海外で大規模な自然災害が起こった場合には、国際救援活動を行うNGOに備蓄物資を提供することとしており、岡山発国際貢献活動を行う国際救援拠点にもなっているのです。

昨年十二月二十六日には、イラン南東部で大地震が発生し、甚大な被害が生じましたが、その際、AMDAを通じて県から物資提供を申し出たところ、イラン政府の快諾を得て、十二月末には、救援物資をイランの大地震被災地に発送しました。まさに、岡山発の国際貢献の大きな第一歩を踏み出すことができたのです。

さらに、都道府県では全国で初めて「国際貢献活動の推進に関する条例」を制定しましたが、今後ともNGOやボランティア団体などと協力して国際貢献をさらに進めていきたいと思っています。

### 第三章 地域を耕す——私の地域哲学——



「岡山発の国際貢献を考える会」(会長・明石康(右))が報告書を提出

### 名実ともに国際貢献・国際交流先進県

言うまでもなく、グローバル社会の中で、真に「地球市民」たる世界の一員としての存在感を示し、地域の発展を図っていくためには、整いつつある社会経済の基盤や環境を活用して、国際貢献や国際交流をさらに進めていくことが必要です。地域の中だけで完結するのではなく、外との交流の中でこそ新たな発見や展開があり、地域の共生が実現されることになるのです。

岡山県では明石康元国連事務次長らをメンバーとする「岡山発の国際貢献を考える会」からの提言をもとに、救援物資備蓄センターの設置を行い、NGO等と連携して、カンボジアにおける有機無農薬野菜栽培の指導、世界から関係者を集めてのおかやま国際貢献NGOサミットの開催、AMDAが運営する公設国際貢献大学校での

人材育成などを進めています。今後とも、一層の国際貢献活動を推進するため、多くの県民が幅広く国際貢献活動に参加できる仕組みづくりを進めていきたいと思えます。

また、本県は、国際貢献の推進のための条例を全国で初めて制定しました。国際救援活動に携わる人材の育成を図るなど、県民の皆さんの理解と協力を得ながら、国際貢献先進県おかやまとしてのさらなる飛躍につなげていきたいと思えます。

国際交流については、東アジアIT協力会議や国際バイオシンポジウム、男女共同参画グローバル政策対話岡山会議等の各種国際会議の開催、スロベニアチームのワールドカップ・キャンプ地誘致や第二十五回JAL杯世界アマチュア囲碁選手権戦倉敷大会の開催等のスポーツ・文化交流、中国・アメリカ西海岸などを対象としたビジネスマッチングや世界最大規模のパリ国際自動車技術見本市への出展等の経済交流、あるいは、スタンフォード大学生と県内学生等との若者同士の主体的交流といった形で、幅広い分野で裾野を広げながら交流が拡大しつつあります。

また、国際ボランティアの人材バンク「おかやま地球市民ネット」の設置・運営、留学生への奨学金の支給、生活情報の提供や相談体制の整備などを進める中で、外国人留学生は大きく増加しつつあります。

私たちは、こうした国際貢献や国際交流の輪を広げる中で、グローバル化の進む国際社会の一員

(特定非営利活動法人アムダ理事長／医療法人アスカ会理事長)



「弱者が存亡の危機に瀕した時に動く」とは岡山の精神風土です。1995年の阪神大震災被災者救援活動に岡山は燃えました。神戸の人達には非常に感謝されました。しかし、岡山の人達は当たり前のことをしていただけと思っています。このギャップが岡山の真の財産です。更に、同年のサハリン大地震、1996年の雲南大地震、1999年のトルコ大地震、2001年のインド西部大地震そして最近では2003年のイラン南東部地震におけるAMDАの被災者救援活動に対する暖かいご支援が何よりの証拠と思っています。

岡山の精神風土の秘密は桃太郎伝説から始まる弱者の歴史にあります。弱者は弱者の痛みがわかります。弱者の痛みがわかる視点を大きく伸ばすことこそ岡山の明日を築く原点です。弱者の痛みを理解できる気持ちに国境はありません。弱者の痛みがわかる精神風土は人道支援の世界の公共財産と言っても過言ではありません。

人道支援の世界都市。世界都市とは世界が必要とする都市の意味です。「西のジュネーブ、東の岡山」はそのスローガンです。ジュネーブには人道支援の国連機関、国際機関そして国際NGOが集っています。世界各地でそれぞれの地域のために活動しているローカルNGOのネットワークを岡山に確立し、ジュネーブと協力して世界の人道支援活動に貢献するという構想です。AMDАも国連NGOとしてお役に立てればと思っています。

石井知事の主導される国際貢献先進県構想と快適生活県構想は二卵性双生児です。弱肉強食の性格を有する資本主義社会が進歩すればするほど弱者への配慮が不可欠になります。国際貢献先進県構想は世界レベルで弱者へ配慮する精神を育成します。快適生活県構想の基本は少子高齢化社会における安心の確立にあります。二卵性双生児の真意は「情けは人のためならず」です。石井知事による岡山の精神風土を尊重した政策の実現が岡山県民にとって最大の至福になると確信しています。

としてその責務を果たすとともに、地域相互の発展・共生に向けて、このような活動を地域の「まち」「むら」づくりに活かし、県民協働の中で、郷土愛に包まれた、いきいきとした地域づくりを進めていくことが重要です。一歩一歩積み上げてきた基盤・環境を背景としたこうした取組みにより、真の意味で、世界に輝く「まち」や「むら」が形成されるのです。

私は、二十一世紀の新しいおかやまづくりとして、このような、世界に輝く、特色豊かな「まち」「むら」づくりを力強く推進していきたいと思っています。